

目次

- 1-2 特別展「広島缶詰物語」
 - 3 企画展「『ごんぎつね』が語る昔の暮らし」
- 3-4 企画展「広島町新開絵図を読む～江戸時代の干拓事情～」
 - 4 文化の日イベント「駄菓子作り広場」
- 5 活動報告
- 6 平成 26 年度を振り返って
新刊紹介
- 7 新着収蔵資料
- 8 平成 27 年度 展示紹介

特別展

「広島缶詰物語」

会期：2015 年 1 月 24 日（土）～4 月 12 日（日）



「広島缶詰物語」展示風景

広島県が第二次世界大戦以前、全国屈指の缶詰生産県だった事実をご存じの方は広島でも少なくなっています。また、缶詰業が盛んだったという事実も歴史の本では、軍需との関係で語られます。これは間違いのないことで、戦争があるたびに広島缶詰生産は飛躍的に伸びていますが、軍需の一言で語ってしまうには広島缶詰業は裾野の広いものです。今回、その一端でも紹介できればと特別展を企画し、広島缶詰業の変遷を紹介しました。

日本に缶詰技術が入って来てからまもない明治 10 年代、広島で缶詰業を志す者が現われました。脇隆景と逸見勝誠^{みかつあき}に代表される先駆者は苦勞しながら缶詰業を立ち上げます。日清・日露戦争などの戦争による軍需は、脇^{わきたかかげ}や逸見^{へん}に続いて創業した広島缶詰業者たちを成長させます。この頃の主力製品は、軍需品として最適な牛肉缶

(2 ページにつづく)



脇隆景葉書



空缶 左の二つの缶はブリキ印刷缶

詰で、中国山地の畜牛を背景に全国でも圧倒的なシェアを誇りました。また広島では瀬戸内海沿岸部の牡蠣^{かき}や果実、山間部の筍・松茸・栗といった缶詰用の産物が他の大都市に比べて安く集まるといった特徴がありました。広島では季節ごとの産物を使って品種を変えながら缶詰にすることで、軍納だけに頼らない生産体制ができたのです。広島県の缶詰生産額は、明治後期から昭和初期まで、ほとんどの年で全国一位であり、まさに「缶詰王国広島」の様相を呈したのです。

牛の供給量が減少してきた大正後期からは、中国・朝鮮などからの輸入牛を使用して減少分を補うようになりましたが、右肩上がりの成長は望めなくなります。そんな時期の昭和2年(1927)、大長村の加島正人が広島県広島工業試験場の指導を受けて、日本で初めてアルカリ剥皮法によるみかん缶詰の製品化を行います。みかんのじょう^{のう}囊の剥皮を薬品で行うこの方法は瞬く間に広島・静岡などのみかん生産県を中心に広がります。加島のみかん缶詰は中島董一郎を通じてイギリスに輸出され同国人の舌をとらえ、急激な成長を遂げます。海外移民向けを中心に

した限られた量だった缶詰輸出も外国人向けのみかん缶詰の登場で飛躍します。昭和初期には広島県の缶詰生産量の輸出割合は10%に満たないものだったのが、昭和10年代には50%以上に跳ね上がっています。国内や軍需向けだった缶詰業は輸出産業に変化したのです。旧来の缶詰業者もみかん缶詰の生産を開始し、広島市内中心だった業者も瀬戸内海沿岸を中心に県内全域で創業し、現在の竹原市忠海にはアヲハタ株式会社の前身となる旗道園が設立されました。また、農村では昭和恐慌による不況を脱しようと、組合による工場で筍や松茸などの缶詰が製造されるようになっていきます。こうして農村の組合系の工場も含めると昭和13年(1938)には県内に81

もの工場ができています。

広島缶詰王国の終焉は国策によってやってきます。第二次世界大戦が泥沼化する中で、企業合同により缶詰業者の統合が行われ、県下の缶詰製造業者は2社だけとなります。この時に、多くの業者は廃業・転業を余儀なくされ、原子爆弾による被害や物資不足なども相まって、ほとんどの業者が戦後再開することがなかったのです。

特別展では、広島缶詰業を編年的に見ると同時に、多くの缶詰業者たちの歩みも紹介しました。魅力あふれる人物が多く、まだまだ知られていない郷土の先達がいることを改めて実感しました。期間中には、戦後に創業し、昭和40年代まで缶詰業を営んでいた杉田食品株式会社の代表者 杉田萬壽男氏の御息女 川本萬貴子氏から資料をご寄贈いただいたり、平源缶詰工場の代表者 平賀源次郎氏の御息女 田中敏子氏からお話を伺いました。また、田辺良平氏からは、図録執筆中に判明しなかった松浦商店の創業者松浦泰次郎氏の没年が昭和28年(1953)であるとの情報をお寄せいただきました。ここに記して謝意を表したいと存じます。

(田村 規充)



牛肉筍永進煮 株式会社木村永進堂



鯛金ぱら 広島畜産株式会社

企画展

「『ごんぎつね』が語る昔の暮らし」

会期：2014年9月6日（土）～2014年12月7日（日）

企画展「『ごんぎつね』が語る昔の暮らし」は、新美南吉の童話『ごんぎつね』のストーリーにあわせて、約120点のパネルや資料で昔の暮らしを紹介する展示です。当館では、平成13年度から、毎年恒例の秋の展示として開催しています。

童話『ごんぎつね』は、子どもから大人まで多くの人に親しまれており、小学校4年生の国語の教科書にも掲載されています。物語の舞台は、江戸時代の終わり頃の農村。人々が自然に囲まれた山里で、様々な工夫をして暮らしている様子が描写されています。お話の中に登場する「はりきり網」や「びく」・「おはぐろ」など、昔の道具を実際に見ることができるのは、この展示の醍醐味です。



「『ごんぎつね』が語る昔の暮らし」展示風景

また、この時期、学校での学習にあわせて市内小学生のみなさんが団体で来館されることが多く、学校での学びをより一層深める場としてご活用いただいています。

企画展の関連事業として、今年度は「『ごんぎつね』に親しもう」（紙芝居の朗読とおはぎ作り）を行いました。フリーアナウンサーの桂幾子氏による『ごんぎつね』の朗読では、参加者の方々も物語に引き込まれている様子でした。物語をじっくり味わうことで、背景に描かれる人々の暮らしを、より身近なものに感じていただけたのではないのでしょうか。

ごんぎつねや兵十たちが、生き生きと描かれる童話の世界。その背景に描かれる、人々の暮らしや知恵に思いを馳せ、学ぶことで、新たな気づきや発見に出会うことができるかもしれません。次年度以降も、企画展「『ごんぎつね』が語る昔の暮らし」を、より多くの方々に楽しんでいただければと思います。

（正連山 恵）

企画展

「広島町新開絵図を読む ～江戸時代の干拓事情～」

会期：2014年10月18日（土）～2015年1月12日（月・祝）

江戸時代の広島城下の様子を知ることができる資料として、城下を平面的に描いた「城下絵図」があります。少なからず残されている城下絵図の中で、異彩を放っているのがこのたび取り上げた「広島町新開絵図」です。本図は享保6年（1721）の城下の状況を土台として作成されたもので、同18年頃（1733）までの変更事項については貼紙で修正が加えられています。実測図ではなく、縮尺などは不正確な部分がありますが、町奉行所で使用されていたもので、実地踏査に基づいて詳しく描かれていると思われます。

記載内容の精度の高さと同時に、本図の価値を高めているのがその内容です。残されている城下絵図の多くは、城および侍町に主眼が置かれており、城下の大半を占めていた町人町や、干拓によって城下の南側に拓かれた新開地は簡略化されています。それに対して、本図の主眼は町と新開地にあり、他の絵図では得られない情報を多く含んでいるのです。新開地の詳しい描写から当時の海岸線が現在のどのあたりになるのか、今回推定することができました。発達途中の町の姿は来館者の興味をひいていたようです。

（4ページにつづく）



広島町新開絵図 東新開 潮廻し

本図を調査するにあたって特に担当者が関心を抱いたのが、城下の排水のあり方でした。町で出た生活排水や雨水などがどのように処理されていたのか、これまで詳しいことは分かっていませんでしたが、本図によってかなり多くのことが判明したのです。

基本的に排水や雨水は川には流されず、海岸線まで水路で運ばれて海に捨てられていました。これは生活用水を得る川の保全のためであったと考えられます。城下の南には新開地が広がっていますが、干拓によって得られた土地であったため海面よりも低く、その海岸線には堤防が設けられていました。排水のために堤防には樋門（水門）が設けられましたが、満潮時には海水が逆流するため、門は閉じられていました。しかし、樋門が閉じられている間も排水は流れてくるため、それらを溜めておく貯水池が必要でした。絵図には排水路・樋門・貯水池の様子が詳しく描かれているのです。

それ以外にも江戸時代の広島に関する多くの情報を持つ「広島町新開絵図」を今回初めて詳しく紹介することが出来ました。かつて私たちが住む場所がどのような姿だったのか、関心を持っていただけたら幸いです。

（本田 美和子）

文化の日イベント

「駄菓子作り広場」

開催日：2014年11月3日（月・祝）

広島市郷土資料館では毎年11月3日文化の日に館を無料開放しており、それに合わせて、昔懐かしい駄菓子を自分で作ってみよう！という「駄菓子作り広場」を実施しています。一銭洋食やカルメラ焼き、あったかわらびもち作り、綿菓子、ラムネ菓子作り、型抜き、スーパーボールすくいなどのブースを出店、例年6000人前後のお客様に参加していただいています。

昨年はあいにくの空模様でしたが、今年は晴天に恵まれ、昨年・一昨年を上回る6649人という大勢のお客様にご参加いただき、イベントを楽しんでいただくことができました。

どこのブースにも長蛇の行列ができ、少なからずお待ちいただいたことや、材料・賞品が無くなったため、

早めに終了してしまったコーナーがあったことは恐縮でした。しかし、当日は運営に携わっていただいた多くのボランティアの方たちの奮戦で皆様に笑顔でイベントに参加していただくことができました。職員・ボランティア、そして参加者の方が一体となって楽しむことができるこのイベントを、今後も大切にしていきます。

ご参加いただいた皆様、そして、ボランティアスタッフの皆様、本当にありがとうございました！

（日原 絵理）



天気もよく、とても賑わいました！

活動報告

2014年10月～2015年3月

教室事業

- 10月4日(土) お手玉作り
- 11月14日(金) 伝統技術を学ぶ(大人向け教室)
- 12月5日(金) 水引き飾り作り(大人向け教室)
- 12月13日(土) 羽子板作り(親子教室)
- 12月20日(土) クリスマスカード作り(親子教室)
- 12月26日(金) もちつき体験
- 1月31日(土) ノリすき体験
- 2月7日(土) ノリすき体験
- 2月14日(土) バウムクーヘン作り(親子教室)
- 2月15日(日) バウムクーヘン作り(親子教室)
- 2月22日(日) 江戸時代のカキ船料理体験(大人向け教室)
- 2月28日(土) ひな人形作り
- 3月7日(土) わらざうり作り
- 3月13日(金) 戦前の牛缶料理作り(大人向け教室)
- 3月21日(土) ぼたもち作り



12月5日(金)
水引き飾り作り(大人向け教室)



10月5日(日)
植物公園「かんたんからくりコイノボリ」

その他の事業・館外活動

- 10月5日(日) 秋のグリーンフェア(植物公園)で工作指導「かんたんからくりコイノボリ」
- 10月24日(金) 東区民文化センター(東区図書館主催)で講演「郷土の歴史再発見」
- 10月25日(土) ハノーバー庭園でボランティアフェスティバル
- 11月1日(土) 広島文化賞受賞記念文化講演会(広島県立美術館)で講演「雁木から探るまちの歴史」
- 11月15日(土) 城下町広島の歴史講座十講(東区総合福祉センター)で講演「大石内蔵助の遺児代三郎と広島」
- 11月20日(木) 大芝長寿大学(大芝集会所)で講演「陸軍の三廠」
- 11月22日(土) 観光アシスタントひろしま研修会(縮景園)でフィールドワーク「縮景園の歴史」
- 11月28日(金) 吉島公民館で講演「広島城下の小路」
- 11月29日(土) 青崎小学校で工作指導「藍染めハンカチ作り」
- 12月3日(水) 老人大学院OB会(広島市社会福祉センター)で講演「絵葉書の中の広島」
- 12月5日(金) 広島市観光ボランティアガイド養成講座(平和記念公園内レストハウス)で講演「広島市の歴史について」
- 12月10日(水) 老人大学院OB会(広島市社会福祉センター)で講演「絵葉書の中の広島」
- 12月11日(木) ふるいちねんりん大学(古市公民館)で講演「絵葉書で振り返る広島の歴史」
- 12月20日(土) 城下町広島の歴史講座十講(東区総合福祉センター)で講演「祇園町大工卯之助と八木用水」
- 1月19日(月) 広島市立大学で講義「博物館資料論」
- 2月21日(土) うじな通特別講演会(宇品公民館)で講演「うじなの歴史」



11月29日(土) 青崎小学校
「藍染めハンカチ作り」

平成 26 年度を振り返って

当館は、指定管理制度による運営が始まって9年目を迎え、今年度はこの指定管理第3期の初年度にあたりました。

これまでにない試みとして、弥生時代から古墳時代に焦点を当て、出土品をとおして郷土広島の原像に迫る企画展や広島のデルタを形成し多くの命を育んできた太田川の歴史、そしてそのデルタにつくられた広島城下町が、南へ干拓によって拡大していく様子を探る企画展、更には、戦前まで広島の主要産業のひとつであった缶詰業の沿革を探る特別展などを開催し、高い評価をいただいて予想を大きく上回る入館者がありました。皆様のご支援ご協力に心から感謝申し上げます。

今年、広島市は被爆70周年を迎え、また、被爆建物である当館も郷土資料館として生まれ変わって30年の節目を迎えます。これからも皆様の期待にそえる企画展や魅力ある事業を展開していきたくと思っていますので、引き続きよろしくお願いします。

(館長 中田 幸治)

新刊紹介

特別展図録

『広島缶詰物語』

定価：750 円 (税込)

送料：300 円 (1 冊の場合)

発行：2015/1/24

概要

戦前の広島には、いくつもの民間の缶詰業者が設立され、缶詰製造業は主要産業のひとつでした。そうした缶詰業の沿革をすることで、広島の近代史の一面を紹介します。

広島缶詰物語



●目次

はじめに

カラー図版

1 草創期の広島缶詰業

① 脇隆景と逸見勝誠の創業

② その後の脇隆景

③ その後の逸見勝誠

④ 缶詰業が起こった理由

⑤ 創業者たち

2 発展する広島缶詰業

① 戦時に伸びる缶詰業

② 広島缶詰を牽引する牛肉缶詰

③ 継承者たち

④ 缶詰工場の様相

⑤ 関連する組織・業者

写真帖に見る缶詰工場の様相

3 缶詰製造技術の発達

○製缶工程

○調理・詰込・脱気・殺菌工程

4 転換期の広島缶詰業

① みかんへの転換

② 輸出産業として

③ 増加する製造業者

④ 農村工業の一環として

5 戦時統制の時代

① 物資の統制

② 企業・団体統合の進展

③ 広島における企業合同

④ 戦時下での製造業者

6 戦後の広島缶詰業

① 復興期の広島缶詰業

② その後の広島缶詰業

参考データ資料

資料翻訳

主な参考文献

A4 判 101 ページ

新着収蔵資料

2014年10月から2015年2月までにご寄贈いただきました資料です。みなさまありがとうございました。

資料番号	資料名	点数	氏名	受入年月日
2014-1010	大河周辺地域写真 パネル	6	土橋 幸正	2014.10.18
2014-1011	大河周辺地域写真 ネガフィルム	1 式		
2014-1012	オープンリール式テープレコーダー	1	小武家 暁子	2014.11.8
2014-1013	8ミリ映写機	1	木村 淳治	2014.11.19
2014-1014	8ミリカメラ Pathé	1		
2014-1015	カメラ Jhagee Exakta	1		
2014-1016	カメラ Kodak	1		
2014-1017	糖度計	1		
2014-1018	缶詰工場使用道具	13		
2014-1019	缶詰ラベル 永進の和梨	3 締		
2014-1020	缶詰ラベル サンヨーのみかん	1 式		
2014-1021	缶詰ラベル 洋桃	1 式		
2014-1022	手ぬぐい	3		
2014-1023	ホーロー看板 パインアップル缶詰	1	小林 奈緒美	2014.12.13
2014-1024	大便器	1		
2014-1025	貯蓄債券	4	上田 克憲	2014.2.8
2014-1026	戦時貯蓄債券	3		
2014-1027	戦時貯蓄債券	3		
2014-1028	報国債券	2		
2014-1029	報国債券	1		
2014-1030	戦時報国債券	2		
2014-1031	戦時報国債券	1		
2014-1032	遺族国庫債券	1		
2014-1033	賜金国庫債券	1		
2014-1034	三分半利公債證書	1		
2014-1035	三分半利公債證書	4		
2014-1036	三分半利公債證書	1		
2014-1037	出征兵士遺言状	1		
2014-1038	打検棒	2	川本 萬貴子	2014.2.8
2014-1039	写真 杉田食品缶詰工場関係写真	8		
2014-1040	和鏡	16	相原 和子	2014.2.17
2014-1041	絵葉書 諸兵連合演習	2	和田 義弘	2015.3.8
2014-1042	絵葉書 本願寺法主広島市街御通行ノ実況	1		
2014-1043	絵葉書 安芸国安佐郡深川村薬師橋	1		
2014-1044	写真 歩兵第11連隊記念写真	1		
2014-1045	写真 広島陸軍兵器支廠比治山兵器庫新築工事中 大岩組請負	6		
2014-1046	写真 芸妓?	1		



2014-1011
写真 旧宇品線最終運行日



2014-1018
缶詰工場使用道具 半田ごて



2014-1039
写真 杉田食品株式会社
缶詰工場 鮎缶詰

平成 27 年度 展 示 紹 介

企画展 ひろしま再発見 2

2015 年 4 月 25 日（土）～ 2015 年 6 月 21 日（日）

古墳時代から奈良・平安時代ころの遺跡や出土品を中心に紹介することを通して、郷土ひろしまの実像を見つめます。

企画展 広島市郷土資料館の歩み

2015 年 7 月 4 日（土）～ 2015 年 8 月 30 日（日）

昭和 60 年に開館した広島市郷土資料館は今年で開館 30 周年になります。郷土資料館のこれまでの歩みをミニ展示で振り返ります。

夏休みイベント おばけの夏休み

2015 年 7 月 18 日（土）～ 8 月 30 日（日）

今年の夏も郷土資料館のおばけ屋敷でドキドキわくわく！
ちょっぴり怖くてユニークな妖怪たちがやってきます。

企画展『ごんぎつね』が語る昔の暮らし

2015 年 9 月 5 日（土）～ 12 月 6 日（日）

新美南吉の童話『ごんぎつね』のストーリーを交えながら、童話に登場する昔の道具や人々の暮らしを紹介します。

特別展 広島市民と戦争

2015 年 10 月 17 日（土）～ 2016 年 1 月 11 日（月・祝）

一広島市民の出征から戦死・葬儀に至る一連の資料を通して市民と戦争の関わりを紹介します。

企画展 広島 of 麻づくり

2016 年 1 月 23 日（土）～ 4 月 10 日（日）

かつて広島 of 地場産業の一つだった麻づくりの歴史・技術・道具について紹介します。

ひろしま郷土資料館だより No.89 2015 年 3 月 31 日発行
編集・発行 公益財団法人広島市文化財団 広島市郷土資料館
〒734-0015 広島県広島市南区宇品御幸二丁目 6-20
TEL:(082)253-6771 FAX:(082)253-6772
URL: <http://www.cf.city.hiroshima.jp/kyodo/>